

まっふる 北前船

子ども調査団

北前船は幸せを運んだ宝船

北海道

福井

新潟

秋田

山形

船はモノを運ぶ天才!

海でつながるわたしたちの「いま・むかし」

北前船は旅するデパート

春を告げる北前船

紅花との交かんで運ばれた文化

祝! 日本遺産認定!

2017年4月

「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ~北前船寄港地・船主集落~」

北前船 北海道子どもサミット かいさい!

6道県の子ども調査団代表が成果を発表!

かつて、北前船がめざしたのは北海道でした。ということで、北前船子ども調査団も最後は北海道に集合! 各地区の代表34名が小樽市総合博物館と小樽運河プラザ三番庫で、北前船についてやほかの地いきとの交流のようすを「北前船新聞」にまとめて発表しました。発表のあとは、小樽市内の北前船ゆかりの地を視察。調査員たちはすっかり仲良くなりました。最後は船絵馬づくり、そして「共同宣言」の発表で締めくくりました。



船絵馬に思いをこめて!



- 「大人になったらまたこのサミットに参加して、北前船を知らない子にたくさん教えてあげたい」
- 「家に帰ったら勉強したことを教えたい」
- 「日本人だけでなく外国の人にも北前船のことを伝えたい」
- 「家に帰ったらまっふるを自由研究にとりかかってこのことを書きたい」
- 「北前船の本を出版する!」
- ……いろいろな思いをこめてひとりひとり船絵馬に言葉をつづりました。

共同宣言

私たちは、北前船が伝えてくれた文化、技術、昔の人の知恵が、今も私たちのくらしの中に、まぎていることを学びました。

私たちは、北前船の調査を通じて、友だちと交流を深めることができ、また、北前船のこころを、家族や友だちへ伝えていきたいと思います。

平成二十九年八月九日

ほくたち、わたしたちができること

もし、北前船がなかったら?

今、わたしたちが食べているものも、楽しみにしているお祭りも、なかったかもしれません。

北前船があったから、今こうしてつながることができたわたしたち。

北前船が残してくれた宝物を、わたしたちはどうしたらいいでしょう。

今回のきょうな体験を教えたい、伝えたい。そんな思いをこめて、ここに共同宣言します。

まっふる 北前船子ども調査団 2017年10月発行

発行: 海と日本プロジェクトin福井県・新潟県・山形県・秋田県・青森県・北海道 各実行委員会

制作: 株式会社 昭文社

制作協力: 福井県・新潟県・山形県・秋田県・青森県・北海道の小学五年生のみなさん、および各施設、ボランティアガイドの方

総監修: 土屋周三

●許可なく転載・複製することを禁じます。 ●Shobunsha Publications, Inc. 2017

日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として制作されました。

知っておきたい北前船 調査キーワード

日和山



北海道小樽市祝津の日和山

とくていの山の名前ではなく、船乗りが天候や海路のようすを見るために利用した港の近くにある丘や小さな山を指します。各地に日和山といわれる山がそこここに在っているんですね。

北前船の寄港地では多くの共通キーワードを発見しました。これらの言葉を覚えておくと、地いきのつながりが見えてきますよ。どの地いきでこれらのキーワードが出てくるか探してみよう。

船絵馬



円覚寺(青森県深浦町)の船絵馬

航海の安全を祈願して船主や船頭が自船のすがたをえがいた絵馬。地元や寄港先の神社・寺に奉納しました。博物館や資料館でも展示しているところがあります。

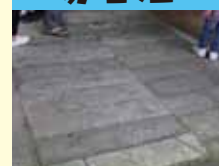
船箆笥



岸名家(福井県坂井市三国町)の船箆笥

北前船で金庫のように使われていました。外はじょうぶなケヤキでうるしが何重にも塗られ、角を金具で覆うことでよすり強度を高めています。盗難防止のためのかげや通眼により、海中に投げ出されても浮くように設計されています。

笏谷石



金刀比羅神社(秋田県秋田市)の笏谷石

福井県の足羽山でとれる青みがかった石。屋しきや寺社の基礎に使いました。また、船底に積んで船を安定させるためにも役立ちました。今でも多くの寄港地で目にするることができます。

もっと! 知っておこう!

【北前船主】(きたまえせんしゅ)

北前船の持ち主。五大北前船主は南越前河野(福井県)の右近家、加賀(石川県)の広海家・大いし家、越中(富山県)の馬場家(※)、家・浜中家、越中岩瀬(富山県)の馬場家(※)。

【廻船問屋】(かいせんどんや)

各地の港を結んでさまざまな品物を取引する船(廻船)を扱い、廻船が運ぶ商品を手がけるお店のこと。

【豪商】(ごうしょう)

手広く商売をしてばくだいな利益を得ている商人。北前船でもうけ豪商になるケースも多くみられました。



北前船のお金のハナシ

●北前船を作るにはいくらかかる?

江戸時代後期なら千石船1艘で約1000両、今の約1億円でした。南越前河野の北前船主、右近家は最盛期には30艘も船をもっていたそうですよ。

●北前船ってもうかるの?

1回の航海で1000両(約1億円)の利益が出たといわれています。北前船の航海は1年に1回が多1年目で船の建設費、2年目で荷物の仕入れ費、3年目から多くの利益を得られました。

●ニシンでおもいうけできたって本当?

北海道から多く運ばれたニシン。各地でニシンを食べる風習が残っていますが多くはニシン粕という肥料として綿花などの栽培に使われ爆発的にヒット! 高いときには通常の7~8倍のねだんで売れたそうです。



「北前船子ども調査団」の報告を紹介するよ!



北前船 ことも調査団

6道県の小学5年生が 地元を調査!

日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の1つとして、北前船の寄港地である、福井、新潟、山形、秋田、青森、北海道の小学5年生たちが「北前船ことも調査団」を結成! 地元に残る北前船の繁栄のあとを訪ねて、北前船が何を運んだのか、その結果何が変わったのかを調査してきました。最後には各道県の選抜チームが北海道・小樽に集合して調査結果を報告しました。



北前船を大解剖

- ① 北前船にはエンジンはなく、帆と舵だけで動きます。
- ② 「北前船」は船の名前ではなく、船自体は「弁財船」を中心に「北国船」などいくつかの船型がありました。
- ③ 千石船で2500俵の米が積み込まれました。今でいうと150トンくらいです。
- ④ 帆のたて筋1本が1反です。帆の反を数えることで船の大きさがわかります。
- ⑤ 積み込まれている小さな船は伝馬船といい、大きな弁財船が近づけない岸と往復して荷物を運びました。

物と文化を運んだ 海のデパート

きたまえぶね

北前船って どんな船?

祝! 「北前船寄港地・船主集落」が 日本遺産に認定されました!

文化庁の平成29年度「日本遺産(Japan Heritage)」に「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間~北前船寄港地・船主集落~」が認定されました!

日和山公園(山形県酒田市)の北前船模型



現代でも物資を船で運ぶ海運が主流ですが、かつての日本には江戸時代なかばから明治末ごろまでの約150年間にわたる北海道(蝦夷地)と大阪(大坂)を行き来した北前船という船がありました。北前船は、客から荷物を預かり運ぶだけの「賃積み」ではなく、船主が商品を仕入れて売りさばく「買積み」を主としたことが一番の特長です。立ち寄った港(寄港地)で商品を売りさばき、あらたに買い付けたものを乗せて次の港でまた売りさばく。「海のデパート 総合商社」といわれるのは、そのためです。うまくいけば巨万の富を得られましたが、厳しい北の海で難破すれば、すべては水の泡。大損をする可能性もある、かく千金をかけた男のロマンでもありました。

北前船の航路(コース)と今回の調査地

1672年に河村瑞賢によって開かれた東北・北陸と西日本を結んだ「西廻り航路」が主流でした。それまで北陸や東北の産物は、敦賀や小浜(福井県)で陸揚げされ、琵琶湖を通して京都や大阪に運ばれていましたが、積みかえる手間や馬・馬方にかかる費用はばく大い。西廻り航路なら船で一気に大量の物が運べるようになりました。河村瑞賢が江戸幕府からもらった報奨金は3000両、なんと今の3億円程度だったといわれています。

※大阪から北海道への荷物を下り荷、北海道から大阪への荷物を上り荷といいました。





ことひらじんじゃ にしうまじまちょう 金刀比羅神社(西廡島町)



この神社には、江戸時代に新しく船をつくらせた北前船の船主たちが奉納した模型が残されています。新潟では「バイセン」とよばれていた北前船の実物に迫るすがたに注目!

ことひらじんじゃ よりあいちょう 金刀比羅神社(寄合町)



神楽を演じる「舞殿」があるこの神社では、かつて船がそうなんから救われたようすをえがいた「難船彫刻絵馬」が見られます。足にひもが結ばれているこま犬にも注目!

きゅうおざわけじゅうたく 旧小澤家住宅



明治時代から廻船業をはじめ、やがて積み荷で商売をする「廻船問屋」として財をなした小澤家。ほぼ当時のままで残された家は、美しい庭や広いさきなど、見どころがたくさん。

みなといなりじんじゃ 湊稲荷神社



江戸時代に航海の無事をいのる神社として建てられてから、海にたずさわる人びとの信こうを集めてきました。台座が回る「願掛け高麗犬」が置かれているのも有名!



※2つの大きな川を使って長野や会津とも活発な交流がありました。



商人たちが夢を追った湊

まもなく開港150年を迎える新潟湊。その成長には「買い積み船」のそん在がありました。自分が持っている船に商品を積みこみ、それらを各地へ売り、さらに各地で買入れた商品を他の港へ運んで売る一貫し積み船の船乗りたちは、まさに商人でした。かれらは新潟に立ち寄り、たくさんの加工品を求めて街はどんどんにぎわい、芸術や文化が発達。さらにその品物は信濃川や阿賀野川を伝って内陸部に行きわたり、会津や長野にもえいきょうがおよびました。新潟湊は、商人たちが夢を求めてやってきた地だったのです。



新潟の人びとは「加工」の天才!

内陸の各地からやってきた木材を皿やはしなどに加工し、うるしをぬって漆器として出荷したり、げたや筆筒などもたくさん作りました。また、さとうがきょうだった時に、お米を加工して作った水あめやゆかり、そして水あめと白玉粉で作った白玉団子は甘み味として非常に人気を集めました。



新潟漆器

こま犬がぐるぐる!? 不思議な願かけにも注目!

湊稲荷神社に置かれているこま犬は、台座が動くめずらしいもの。船主たちだけではなく、宿屋や料理屋など、新潟の街に少しでも長くたい在してほしいと願う人々の信こうを集めました。2体あるうち、右は男性、左は女性が願い事をしながら回します。また金刀比羅神社には、願い事を書いた紙を麻ひもにはさんで足首をしばり、願いがかなったら切る「足止め狛犬」も!



足止め狛犬

願掛け高麗犬

1日いっしょに過ごして、みんな仲良しになったよ!



親子で作ったぬりばしは、世界に1つのきょうなもの!

「日本最大級の大きさをほこる「新潟湊」はなせすこい」を知ることから始まった新潟の調査団。先生方のお話を熱心にうかがい、北前船にゆかりのある場所を歩きました。さらに「新潟漆器」の体験にも大興奮! 木を丸くするなどの加工技術が新潟から各地へ広まっていたことを身をもって体験できました。最後は学んだことをかへ新聞にまとめて発表。ふるさと新潟の歩みを深く知った1日となりました!



北前船は旅するデパート

調査結果1

「港」も「街」も 全国トップクラスの大きさ!

江戸時代につくられた、全国にある港町の大きさをランキング形式で並べた番付。その上位には、しっかりと「新潟湊」の文字があります。日本海を通過して大阪へいたる航路にある新潟湊にはたくさんの船が集まっていたのです。船が集まるということは、人々の交流も活発になるといえます。街ははだいに大きくなり、都市の大きさをあらわした番付でも上位になりました。北前船が通る場所で「港」と「都市」の両方が番付上位だったのはここ新潟だけです。新潟は北前船とともに発てんを続け、江戸時代の終わりには外国に向けて開かれた「開港五港」に選ばれていることになりました。



江戸時代につくられた全国の港町と都市の番付で両方上位なのは長崎と新潟だけ!

調査結果2

船乗りたちも楽しみながら商売!

各地の荷物を運ぶ役わりから、やがて自分たちで商売をする「買い積み船」の役わりをするようになってきたのが北前船の特ちょう。そうすると「人びとはどういふものがほしいか?」「いつ、どこで売ればもうかるか?」を考えることが重要です。商売のセンスをみがき、チャンスをつかいて一かく千金をねらおうと、船乗りたちは夢をえがいていたのかも知れません!

調査結果3

人口増加で商売はんじょう 北前船で港町は大にぎわい!

そんな夢をもった船乗りたちがたくさん集まった新潟の街は、当然のことながら活気づいていきました。人口はどんどん増え、多くの船乗りたちが宿にとまって芸能を見たり、料いて食事を楽しむなど、文化が発達していったのです。



料いて芸能が栄え、今でもその名残があります

- 北前船で運んでいったもの
 - た菓子 ●米
 - 新潟漆器 など
- 北前船が運んできたもの
 - ニシン
 - 塩 ●酒 など

ほかの地いきとのかかわり 「新潟湊」の特ちょうの1つは、入ってきたものを加工して他の地いきに出したことです。また新潟の米はまだ米作がさかんでなかった北海道でよこばれ、大阪でもよく売れました。安くて良いものを集め、タイミングを見て高く売る才能が、新潟の船乗りたちにはあったのです。



山居倉庫



米を集めて保管しておくために明治26年に建てられた倉庫には、保管のための工夫がいっぱい。今でも農業倉庫として使われているよ。

日和山公園



千石船を2分の1にした北前船の模型に乗ることもできるよ。古い洋式灯台もあって、この丘から海を見て船出の日を決めていたんだね。

紅花資料館



河北町で紅花富豪として栄えた堀米邸を復元し、今では紅花の資料がたくさん見られる。7月ごろには庭に紅花がさいてとてもきれいだね。

本間家旧本邸



酒田の豪商、本間家の屋敷。木材は北前船で運んだそう。「本間様にはおよびせぬが、せめてなりたや殿様に」とうたわれせんけいされたんだ。

酒田市
庄内平野



米を届ける西廻り航路が届けた文化

山形県・庄内地方といえば米どころ。江戸時代なかばに、幕府から城米(ねんぐ米)を送るよう命じられた河村瑞賢が「西廻り航路」を開いてから、酒田には最上川を通じて県内各地から米が集められました。北前船のきよ点として栄え、上方(大阪・京都)からの文化が運びこまれた酒田には、はなやかな湊町文化が開き、俳かいや茶道などが教養として流行しました。料てい文化が広まり、そこに通ったのは領主や豪商、船主といった人たち。なんとみ粹でにぎやかな街だったのですね。

紅花にならんで高級品だった「あおそ」



「あおそ」は糸の原材料となる植物です。糸はほかの地いきで加工され、奈良さらしなどの高級織物として生まれ変わることができました。

くきの皮のせんいをつむいで糸にしました。

京都の舞妓と酒田の舞娘

酒田の舞妓さんは「酒田舞娘」といい、地元のおどりや唄など独自のすがたで引きつがれています。京都の舞妓さんとは帯の結び方が違うそうですよ。



江戸時代の料てい「相馬屋」を引きついで「相馬樓」で舞娘さんのおどりを見学。

最上川舟運の船頭たちにルーツがあるといわれている芋煮を試食。



紅花資料館では、紅花染めを体験! 花笠音頭の笠にある花は紅花です。

今回の調査では、山形の特ちょうとして「紅花」を取り上げました。河北町には、豪商もあらわれたというほど、北前船が積んで広めたきよ点な品でした。そんな紅花と交かんで伝わったもの。それは豪商たちが楽しんだみやびな文化です。本間家のような豪商があらわれて街は活気つき、豊かな文化がはぐくまれました。西廻り航路は、山形各地の未来を切りひらき、多くの夢をもたらしただけでしょう。



なるほど! ちようさたん ことも調査団

北前船新聞

山形編



紅花との交かんで運ばれた文化

調査結果1

米を保管するための山居倉庫のすごい工夫

酒田の山居倉庫のそばにあるケヤキ並木は、水分を吸ってくれて風よけの役割もはたしています。また、「二重屋根」で風を通すことで、米は乾燥したじょうたいで保管されました。



ケヤキは根を倉の下までのはして、水を吸ってくれています。



二重屋根。2段積んだ石を置いて空気の通り道をつけました。石は固定されていません。

調査結果2

酒田の豪商・本間家が北前船で運んだ黒松

本間家三代当主の光丘は、さまざまな事業で酒田の街を築てんさせました。とくに人々を守るための海岸ぞいに防砂林として黒松を植えたのは有名で、黒松は北前船で運ばれたといえます。

調査結果3

北前船と最上川が運んだ文化

酒田湊を通じて上方と最上川流いきの各地いきはつながっており、山形の紅花は「最上紅花」と高く評価され全国生産量の約4割を占めました。紅花商人たちが京から持ち帰った江戸時代の雛人形が最上川流いきの街に今も多く残っています。



紅花をつぶして乾燥、はっこうさせた「紅もち」にするというえ2~3年は保存できます。

北前船で運んでいったもの

- 米 ●紅もち(紅花) ●あおそ など

北前船が運んできたもの

- 木綿、着物 ●雛人形 ●塩、酒、油 ●茶 ●木材 ●石(笏谷石)など

ほかの地いきとのかかわり

酒田は北前船に積まれた「船筆筒」の三大生産地の1つです。ほかの地いきにも酒田で作られた船筆筒が残されているはず。今でも酒田には1社だけ船筆筒を作る会社があるんですよ。



金刀比羅神社



船乗りの神様、金刀比羅神社では、ふだんは見られない笏石でできたごま犬などを見られたよ。17世紀くらいのものだといわれています。

嶺梅院



にほんさんだいでん 日本三大弁財天のひとつとよばれる弁財天は、北前船で大阪から運ばれてきたんだよ。若狭の小浜(福井県)から来た不動明王もかっごよかったよ!

あきた港ポートタワーセリオン



1階では、「秋田港の変遷」として、秋田港の昔から今のようすをかいせつしているよ。「秋田風俗絵巻」は北前船のころをえがいているんだって。

こうあんじ きゅうほうじ 興安寺・休寶寺



えちごや かがや 「越後屋」「加賀屋」など豪商の屋号が書いてあるお墓を見つける課題に挑戦! 土崎には、北前船のいろいろな寄港地の名前がつく人が多いぞうだよ。



おものかわ 雄物川

あきたけん 秋田県

春とともに北前船が やってくる!

つちざきあきた 土崎湊の歴史は古く、北前船がとうじようする前から秋田杉や米など秋田の特産品を運び出すための、かなめの港でした。江戸時代になって西廻り航路が開かれるとますます湊は栄え、雄物川流いきの農産物が川船で土崎湊まで運ばれ、そこから北前船で各地に積み出されるようになりました。人が増え、街がで、経済は発っていききました。冬の終わりごろ大阪を出発した北前船は、3月~4月ごろには土崎湊にとうちゃく。北前船はまさしく春をよぶ船だったのです。

「秋田風俗絵巻」のいきいきとした土崎湊



約200年前にえがかれた「秋田風俗絵巻」には、大きな弁財船や立ち並ぶ蔵、お祭りの曳山や忙しく働く人や見張り番など、当時のようすがイキイキとえがかれています。

北海道からやってきたカスベ

秋田の郷土料理カスベ。海の魚のエイを干したのですが、カスベは北前船が北海道から運んできたものなのです。土崎神明社の港まつりの日はカスベ料理で客をもてなしたため、別名「カスベ祭り」ともよばれています。



甘辛い煮付けがおいしいカスベ。秋田からはハタハタずし、北海道からカスベと食文化の交流がありました。

調査発表では、「北前船が運んだもの」「北前船と土崎」など4つの課題で壁新聞を作りました。



秋田臨港警察署の壁にえがかれた北前船のタイル画とともにパチリ。

雄物川の川舟とともに栄えた土崎湊。土崎地区は太平洋戦争の空しゅうで焼けてしまったため、北前船の運んだ物や船絵馬などの形あるものがそれほど残っていません。ですが、お祭りなどの文化や食文化は今も受けつがれていて、人々の暮らしの中で当たり前のように存ざいしています。それこそ、北前船が果たした役割のもっとも大切な部分だと、調査団のみんなは気づいたはずですね。



なるほど! ちようさたん ことも調査団



きたまえぶね 北前船新聞

あきたへん 秋田編



春を告げる北前船

調査結果1

秋田名物!ハタハタずしは北海道に伝わった!?

「ハタハタ」は秋田の人が大好きな魚で、秋田の音頭の中でも唄われるほどの名物。北前船による人々の交流の中で「ハタハタずし」の作り方が北海道に伝わったとされています。

調査結果2

土崎神明社祭の曳山行事と北前船の関係は?

江戸時代なかばに始まった土崎神明社祭の曳山行事は、北前船の船乗りたちがみこしを寄進したことから始まったとされます。当時の曳山がどんなだったか、見てみたいですね。



秋田三大祇事に数えられる「湯ばやし」にのって大きな曳山がごうかいに土崎の街をねり歩きます。ユネスコ無形文化遺産にも登録されました。

調査結果3

いろんなところで北前船が運んだ石を見つけた!

土崎地区の神社や寺には北前船で運んだ石が多く使われています。金刀比羅神社ではごま犬や境内の石だたみに福井の笏石を発見!



金刀比羅神社の笏石でできたごま犬。普段は公開されていない、きちょうなすがたです。



右は嶺梅院のとうろう。鳥居の出雲石でできています。左は金刀比羅神社の石だたみ。青みがかった笏石です。

北前船で運っていったもの

- 米 ●秋田杉 ●大豆、小豆 など

北前船が運んできたもの

- 木綿、古着 ●塩、ざとう ●鉄器 ●石 など

ほかの地いきとのかかわり

福井県敦賀市では「おぼろ昆布」の加工に使う秋田産の包丁を「アキタ」とよぶそうです。北海道の昆布が秋田の包丁を使って福井で加工される。おもしろいつながりですね。



円覚寺(深浦町)



北前船の船乗りたちから感謝をこめて奉納された鬚額や船絵馬がたくさん。階段やとうろうは、福井から運ばれた笏谷石できていたよ。

白八幡宮(鯉ヶ沢町)



4年に1度おこなわれる「白八幡宮大祭」が有名。洋式船などいろんな北前船がえがかれた船絵馬があって、とても興味がわいたよ。

風待ち館(深浦町)



北前船の歴史と文化を学べる。北前船のふくげん模型「深浦丸」は700石積みみの船の3分の1の大きさで、長さは7.5メートルという大迫力!

神明宮トヨの水(深浦町)



北前船は深浦に着くと、ほうふにわき出るこの水をくんで船に積み込んだそうです。今でも地元の人たちが大切に使っているよ。



※行合崎を北前船が行き来した。

青森県

人があつまる風待ち港

青森の津軽海峡をこえれば、終着地の北海道は目の前です。波風のあらい北の海、大阪から北へ向かってきた北前船は、おだやかな深浦湊でよい風を待っていた。だから「風待ち港」とよばれています。日和山にのぼり、船出のタイミングをはかっていた。鯉ヶ沢湊には津軽平野で作られた米があつまり、多くの蔵が立ち並んで、とてもにぎやかだったので。円覚寺や白八幡宮に残るいろんな地いきの人からの奉納物は、多くの人都在这里で航海の無事を祈ったり、感謝したりしながら過ごしたことを今に伝えます。

船絵馬は北前船の重要な記録



船乗りのすがたなどいろんなところに注目して見てみよう。

船絵馬はただの絵画ではなく、船の大きさや乗組員の数など、当時のようすがくわしくえがきこまれた記録でもあります。大阪には船絵馬をえがく専門の絵師がいたそうですよ。

京文化を伝える「白八幡宮大祭」

白八幡宮大祭は、京都の祇園まつりが伝わったので「津軽の京祭り」ともいわれます。北前船によって運ばれた京文化でしたが、明治以降、京風のお祭りは少なくなり、今では津軽地方では鯉ヶ沢のみを受けつがれているきょうな文化です。



古式ゆかしいいしょうに身をつつんだ行列も京都らしい。

文化はどう伝わるのでしょうか。うらやま、人々の行き来によって、伝わります。今回の調査で、各地から多くの人が集まって残した、いろんなものや文化に出会いました。そして最後は食文化を調査!「鯉餅」の食べ比べをしました。これも、北前船が京都から運んだ食文化の1つで、北前船がなかったら、鯉餅も伝わっていません。北前船という船が運んだ文化や伝統は、人々によって今も守られ、伝えられています。



鯉ヶ沢の「鯉餅」とクルマミが入った浅虫の「久慈良餅」。どちらがおいしかった?



調査発表では、ちゃんまげ奉納のおしぼいもとび出しました。



なるほど! ちょうさたん ことば調査団

北前船新聞

青森編



風待ち港は文化の交差点

調査結果1

深浦湊は船出を待つ「風待ち港」

深浦湊は、日本海の荒波のえいぎょうを受けないおだやかな湾です。対馬海流にのれば、いっきに北海道までいくことができたので、ここで船乗りたちは「風待ち」をしていたのです。

調査結果2

円覚寺にある鬚額は感謝のしるしだった!

船頭たちが、嵐にあったあと無事に帰ってこられた感謝をこめてちゃんまげを切り、深浦にある円覚寺に奉納したのが「鬚額」です。円覚寺には日本一鬚額が多く残っています。



鬚額には奉納した船乗りたちの名前や、奉納した年月が書かれています。

調査結果3

白八幡宮の船絵馬を見れば各時代の北前船がわかる!

白八幡宮は鯉ヶ沢を守る神としてまつられ、船主や船頭から奉納された船絵馬が多く残っています。江戸時代から明治時代にかけて船の形が変わるようすがとても興味深いですね。



「鯉ヶ沢湊図絵馬」には3せき大きな北前船や港の米蔵など、江戸時代の鯉ヶ沢湊のようすがくわしくえがかれています。



明治時代になると、帆が何枚もある和式と洋式を組み合わせた船がとうしょうします。

北前船で運んでいったもの

- 米 ●木材 ●わらもしろ ●大豆 など

北前船が運んできたもの

- 木綿、着物 ●塩、酒、油 ●石(磐谷石/福井県、みかげ石/瀬戸内海)など

ほかの地いきとのかかわり

青森県は本州最後の寄港地です。日本中から人があつまり、よい風を待って北海道まで一気に進みました。だから、いろんな地いきの人からの船絵馬、鬚額などの奉納物が多く残っています。



小樽市総合博物館運河館



北前船の模型や船竿、ニシン漁などの資料がたくさん。旧小樽倉庫(明治23~27年)を利用しているので「木骨石造」の仕組みがわかるよ。

祝津パノラマ展望台



小樽港に入る重要な目印だった日和山。灯台は明治16年に設置された。入りくんだ地形で強風がさえぎられ、小樽港はおだやかならんだね。

小樽運河倉庫群

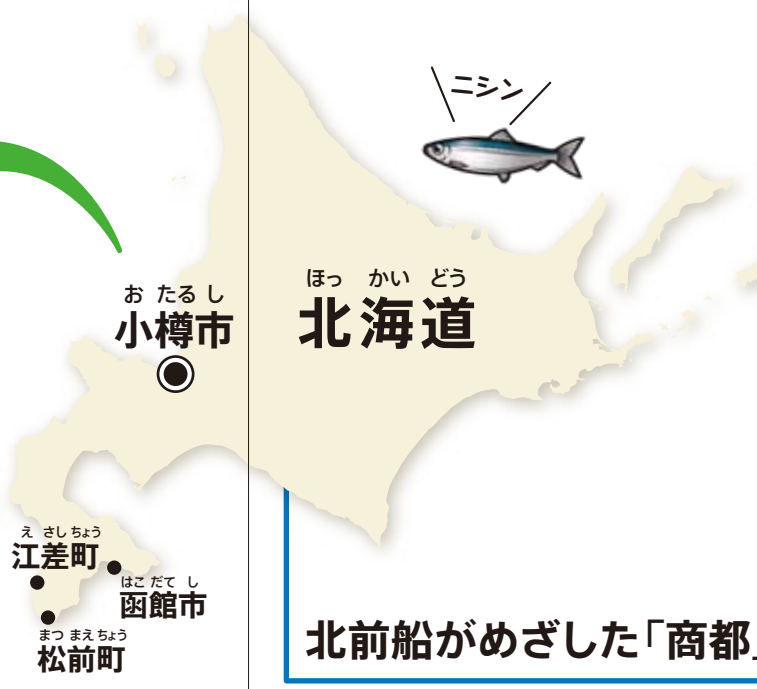


小樽港に運ばれてきた商品を保管・取引するために明治のなかばに運河沿いに多くの倉庫が建てられた。「旧右近倉庫」など立派な建物が残っているよ。

茨木家中出張番屋



祝津の親方・茨木家が漁夫の住宅として建てた「ニシン漁場建築」。多くの漁夫が寝泊りした大部屋では、ニシン漁で栄えていた頃のようすが目に浮かんだよ。



北前船がめざした「商都」

石狩湾に面した小樽港。春に大阪を出発した北前船は、2ヶ月かけてこの北海道をめざしたのです。明治時代、開拓により人口が急増した北海道では、米などの食品や衣服などの日用品を、すべて北前船でまかなうようになり、「小樽に陸揚げしたものは何でも売れる」との評判をよびました。明治から大正にかけて小樽は「商都」として発って、倉庫の前には運河、街には銀行が立ち並び、今でもその頃のようなすを思わせる建物が残ります。北前船は、西からの荷物を北海道で売りさばき、あらたに海産物を積んで夏には大阪に向けて出航したのでした。

巨万の富を!生活をささえたニシン漁



北海道にはニシン漁で得た富で建てられた「鯨御殿」が残っています。肥料として、食べ物として運ばれたニシン。北陸や関西など、多くの地いきでいまでもニシンを食べる食文化が根付いています。

北前船主をささえた小樽運河の倉庫群



明治の終りから北前船が衰退したあとも、北前船主は倉庫業で時代を乗り切ってきました。壁の大きな印は広告でもあり、北前船主たちの商売センスが光っています。

運河ぞいを歩いたり、船に乗って小樽湾を体感したりと海を身近に感じる1日でした。



調査発表会のあとは親子で和菓子づくり。ニシンが泳いでいるようす、わかりますか?

北前船がめざした北海道。最後は親子で楽しく和菓子作りでしめくりました。実は小樽の和菓子店はほとんどが北陸がルーツです。そんなつながりにもおどろきです。北海道のニシン粕(ニシンで作った肥料)や海産物は、大阪や京都で高値で取引されました。反対に、北海道では、米や日用品は北前船が運んでくる物資に頼るしかなく、こちらでも飛ぶように売れたそうです。まさしく、北前船は宝の船といったわけですね。



なるほど! 北海道 子ども調査団



北前船は幸せを運んだ宝船

調査結果1
北前船で運ばれてくる「稲わら」がきょうだった!
米と一緒に運ばれてきた稲わらは、縄や笠などの日用品や建ちく資材、家ちくのえさなどに使われました。稲が育たなかった北海道では米と同じくらい大切にされていたそうです。

調査結果2
北前船が向かい風でも進める工夫があった!
北前船はエンジンがなく帆で風を受けて進みます。向かい風のときは帆を45度にかたむけながら後ろの舵でジグザグに進めました。舵が大きいのはこのためです。



小樽市総合博物館運河館には北前船の模型と実際の帆が展示されています。

- 北前船で運んでいったもの**
- ニシン ●あわび ●昆布 ●数の子、干しサケ、ウラなどの塩漬
- 北前船が運んできたもの**
- 米、稲わら ●若狭がわら など

調査結果3
安くてごうかな倉庫を作った北前船主の知恵
北前船主たちは、しょうぶで安い「木骨石造」という小樽の倉庫建ちく独特の方法で倉庫を建てました。壁は北海道内でとれる軟石、屋根は船の「おもり」だった若狭がわらを使用しました。



調査結果4
船竿の産地とその工夫とは?
船竿は、佐渡(新潟)・酒田(山形)・三国(福井)の日本海側が三大産地です。しょうぶで水も入りにくいので、船が沈みそうときに海に投げ入れ大事な証文を守ったそうです。

ほかの地いきとのかかわり
北海道から大阪まで2ヶ月間、くさりやすい海産物を乾燥・塩づけにするなど工夫しておいしい海の幸を他の地いきに届けました。ニシンや昆布などを北前船が各地に運んだのです。